



姫路赤十字病院 血液・腫瘍内科の平松靖史です。

当院の特色を3つあげると①地域最大の病院《555床》であること②黒字病院であること③立地がよいことです。姫路市は人口53万人ですが、姫路市に大学病院がないことから、患者さまが高度医療や癌の治療を求めて当院に集まってきます。したがって短期間に豊富な症例を経験し、実力をつけることができます。血液疾患でいえば一年間の新規の悪性疾患は悪性リンパ腫約70例、多発性骨髄腫約20例、白血病約20例などであり、血友病や特発性血小板減少性紫斑病などの良性血液疾患も含め多数経験することができます。日本内科学会の教育病院、日本血液学会の研修施設をはじめ様々な学会の研修施設に認定されているので指導体制も万全です。また岡山大学病院内科系のすべての教室（旧第一内科、第二内科、第三内科、循環器内科）の関連病院でもあります。内科、循環器内科、外科、眼科、耳鼻科、脳外科などは岡山大学、小児科、泌尿器科は神戸大学、整形外科は大阪大学と様々な大学の出身者とも交流し協力しながら診療しています。黒字が続き経営が安定していることから、研修医が独立して研修できる研修医棟、敷地内の看護学校、新築された管理棟や会議室などの環境面も充実しています。研修医への学会参加の補助も年2回あります。当院は国道2号線沿いにあり姫路駅から車で約15分程度の場所にあります。姫路駅からは岡山へ新幹線で約20分、神戸へは新快速で約40分、大阪へは新快速で約60分と抜群のアクセスであり、岡山や神戸から通勤している職員も多数います。平日でも様々な地区の研究会へも参加することができることから、いろいろな病院の医師と情報交換し連携を深めています。当院スタッフは赤十字病院の人道博愛の精神のもと、互いに協力し助けあいながら診療しています。

これから医師としてスタートするにあたり、症例数、生活環境、QOLはいずれも大切だと思います。皆さんも私たちのチームに参加したくさんの研修医や医療スタッフとともに実力をつけていきましょう。一緒に仕事できるのを楽しみにしています。

姫路赤十字病院臨床研修医 2 年目の藤原悠紀です。

当院は西播磨地域の中核病院であり、姫路市内で最多の病床(555 床)を有する病院です。したがって、科を問わず経験できる症例は多種多様でユニークに富んでいます。一方、研修医数は 1 学年 10 人(2015 年度より 14 人)と適当な人数であるため症例の取り合いになることはほとんどありません。各科の指導医の先生方は教育熱心な方が多いので、日々勉強になることばかりの研修生活を送っています。

当院の研修プログラムを一言でいうと「自由度が高い」に尽きると思います。必修科目は最小限に抑えられ、自分の将来を見据えたプログラム構成を自分で作るようになっていきます。また、採用時に伝えた志望科を研修する中で変更することも可能です。勉強の環境は充実が図られており、2 週間に 1 回研修医セミナーが開催されていますし、年に 2 回まで学会参加も認められています。また、科ごとに論文の抄読会も定期的に行われています。

一方、研修の中で大きな比重を占めるのが救急当直ではないでしょうか。当院は 2 次救急指定病院であり姫路市内の輪番制度にのっとり救急当番を担っていますため日ごとに症例の数や質は異なりますし、3 次救急病院ではありませんので重症交通外傷など経験できない症例もあります。当院の当直体制は一般救急当直、小児科当直、産婦人科当直、麻酔科 ICU 当直に分かれており、研修医はその月に回っている科に応じてそれぞれの分野の副当直に入ることになっています。小児科当直は月 5 回ありますが、他の当直は月 2-4 回程度です。上級医とともに当直業務を行いますので、大きな不安なく仕事を行うことができます。

当院の研修医は 1 年目、2 年目合わせて現在 21 名ですが、研修医には研修医専用の部屋があります。上級医の目を気にすることなく勉強したり自分の思うままの時間を過ごし、研修医間で診断や治療について日々議論を繰り広げています。仕事が終わればみんなでご飯に行ったり、たまには旅行に行ったりと、いろいろ大変なこともありますがおおむね楽しい研修生活を送っています。

最後になりましたが、当院は若い医師が多い病院であり、教育にも盛んに取り組んでいる病院です。コメディカルのレベルも高く、より良い医療を提供する意欲にあふれる人ばかりで働いています。当院にご興味のある方はぜひ一度見学にお越しください。各科で実習も受け付けておりますので、6 年生の方は実習も歓迎です。



基本的な知識・技能を身につけ、臨床医としての
基礎を築く事を目的とし、日々研鑽します。